

# 病理学

[講義] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》太田亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

疾病の本態を理解するために、体全体に共通してみられる基本病変をその原因とともに学習し、それにより起こる身体の変化について学ぶ。主な項目は、細胞と組織、循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常、疾病と年齢、がん、各臓器組織の疾病の特徴などである。

## 【学修目標】

### 【一般目標】

医療従事者としての、医療知識の基礎である病理の知識を身につける。

### 【到達目標】

1. 細胞、組織の成り立ちと、疾患における病変を説明できる。
2. 出生から、老化までの病態異常を説明できる。
3. 腫瘍の原因・病態を説明できる。
4. 各疾患の臓器や組織の病態を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病理学総論 病因論 細胞・組織・再生と修復	発症原因の内因と外因 細胞障害・組織障害とその修復再生、壊死、アポトーシス、肥大・過形成 について、学ぶ。	太田亨
2	循環器障害	血液・リンパ液循環障害とその疾患病態、血液凝固、虚血、塞栓症、高血圧など について、学ぶ。	太田亨
3	炎症と免疫 感染症	慢性炎症、急性炎症、肉芽腫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、種々の感染症 について、学ぶ。	太田亨
4	新生児から老化まで	新生児疾患の病態、先天異常、老化の形態、老化と疾患 について、学ぶ。	太田亨
5	腫瘍	腫瘍の形態、分類、良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍の原因と遺伝子 について、学ぶ。	太田亨
6	各論 循環器・呼吸器・消化器	心臓、肺、気管、消化器の主な疾患の病因と形態 について、学ぶ。	太田亨
7	各論 内分泌系・造血系	ホルモン分泌の異常、造血系疾患の病因と形態 について、学ぶ。	太田亨
8	各論 泌尿生殖器・感覚器・運動系	腎臓、泌尿器、卵巣、精巣、筋骨神経疾患の病因と形態 について、学ぶ。	太田亨

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

レポート100%

## 【教科書】

小林正伸 編 なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ 2015年1版

## 【備考】

Google FormやManaba を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

**【学修の準備】**

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目を記憶すること。(80分)

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP2. 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

**【実務経験】**

医師

**【実務経験を活かした教育内容】**

医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している